

情報公開内容

課題名：冠動脈 CT における異時相画像データおよび非剛体変形統合法を用いた
新たな画質改善ソフトウェアの臨床的有効性に関する検討

研究の意義

一般的に、CT 検査において撮影時の X 線量を減らしていくと、画像ノイズ（画像のざらつき）が増え、診断に適した画像ではなくなります。本研究では、通常の X 線量で撮影された冠動脈 CT において、画像ノイズを低減する新しい方法の有効性を検討します。画像ノイズを減らすことが出来れば、将来的に X 線量を減らして CT を撮影することができ、患者さんの利益は大きいものと思われれます。

研究の目的

通常の X 線量で撮影された冠動脈 CT において、検査後の既存の画像データを用いてどれだけ画像ノイズを減らすことができるかを検討します。

研究の方法

心臓は常に拍動している臓器ですが、心拍動の中でも拡張中期と呼ばれる瞬間は心臓がいったん静止する瞬間であり、この瞬間の画像データを使用することで冠動脈の静止画像を得ています。一方、通常の撮影後であっても、拡張中期以外の任意の瞬間の画像を作成することができます。これらの画像を複数使用して画像処理を行うことで、画像ノイズを減らした画像を作成することができます。

本研究は、大学病院で過去に撮影された冠動脈 CT の画像データに対して画像処理、統計解析を行う研究です。研究に必要な調査項目は、患者さんの性別、年齢、身長・体重、既往歴、臨床診断、CT 画像、画像診断です。個人を特定できる情報は含みません。

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心下さい。

不明な点がございましたら下記までお問い合わせ下さい

* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出頂いても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

問い合わせ先：

担当者所属： 広島大学病院 放射線診断科

職名： 講師 氏名： 立神史稔
連絡先電話番号： 082-257-5257
e-mail：fuminari@hiroshima-u.ac.jp